

取組みテーマ：楽しく分かる授業づくり～確かな言語力を育む、言語活動の充実～

背景・取組みの方向性

・校内アンケート項目の「自分の考えを伝えるとき、相手や目的などを意識して、伝え方を工夫している」「見通しをもって、学習に取り組んでいる」において、肯定的回答が低く、子どもが学習の見通しをもって主体的に取り組むとともに、自分の考えや感じたこと、思いなどを相手に伝えることに課題が見られた。  
 ・「楽しく分かる授業づくり～確かな言語力を育む、言語活動の充実～」をテーマとし、「単元でつきたい力を児童と教員が意識した授業づくり」「言語活動の充実（思考力・判断力・表現力の育成）」「児童の主体的な活動（自分の考えを書く活動や話し合い活動など）を取り入れた授業づくり」を学校全体で進める。

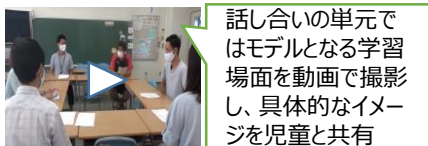
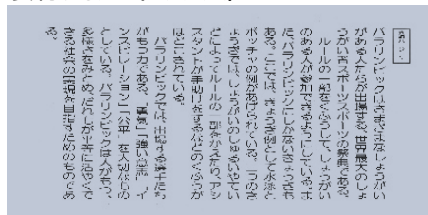
具体的な取組み① 意欲を高める言語活動の設定

○すべての学年の単元計画に「意欲を高める」「必然性のある」言語活動を設定した。（別添資料①）

学年	言語活動例
1年	音読発表会
2年	音読劇
3年	じんだ紹介
4年	紹介文づくり
5年	4コマまんがづくり
6年	推薦カードづくり

○すべての単元でモデル文、モデル学習などを活用した。

要約する力（モデル文）



話し合いの単元ではモデルとなる学習場面を動画で撮影し、具体的なイメージを児童と共有

モデルを示すことで、児童はゴールがより明確になり、学習意欲の向上につながった。また、教員のめあてのイメージも具現化され、評価において判断基準をもちやすくなった。

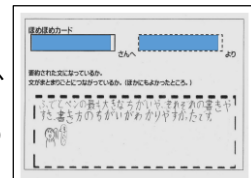
言語活動のポイント

- ・ねらい（付つけたい力）にふさわしい活動になっているか。
- ・既習事項を生かした設定になっているか。
- ・児童の実態にあった、意欲を高めるものになっているか。

具体的な取組み② 確かな言語力を育む工夫

○ほめほめカード

言語活動のあとに相互評価を行う場面を設定した。単元のめあてにそって表現できていたかどうかという観点にしほり、児童が相互に評価を行った。他の児童から「ほめほめカード」をもらうことで、自分の良さを他者に引き出してもらい、自信をもって次の活動につなげることができた。



○音読名人・作文名人

校内で音読コンテストを実施することで、児童が主体的に音読を練習する様子が見られた。また、児童会室に原稿用紙を設置し、作文を募集してコンクールを実施した。校内放送で「音読名人」や「作文名人」を紹介することで、音読や作文に対する児童の意識の変化につながった。

○国語と生活をつなげる取組み

6年「町の未来をえがこう」で資料を効果的に活用し、発表することを学習した。その後、「彩都西小学校のみんなが幸せになるためにはどうすればよいか」について考え、児童朝会で、「給食の残量をへらそう！」「遊具の使い方を見直そう！」等のプレゼンテーションを行った。国語で学習したことを生かして、全学年の児童にわかるように話すことで、目的が明確で深い学びにつながった。

取組みの成果と課題、今後に向けて

○成果

単元計画を児童に提示し全体で共有したことにより、児童が主体的に授業に取り組み、すべてのアンケートにおいて肯定的な割合が増加した。公開授業や研究授業を実施し、学校全体で取組みの進捗を確認しながら授業改善を進めてきたことによる成果とらえている。

○課題

アンケート項目「国語の授業が好き」が、他項目と比較すると変容の幅が少ない。楽しくわかる授業づくりについて、児童が国語の学習の中で身につけた資質・能力を実感できるような工夫をさらに行う必要がある。

○今後に向けて

単元計画や評価計画の分析・検証・改善を行う。

	目標値	4月	7月	12月
国語の授業が好きだ。	73%	65%	71%	70.3%
話のつながりを意識し、大事なことを考えて、読んだり聞いたりしている。	56%	48%	85%	86.5%
自分の考えを伝えるとき、相手や目的などを意識して、伝え方を工夫している。	70%	39%	82%	83.0%
国語の授業で学んだことを、他の教科の学習でもいかしている。	68%	46%	81%	78.0%